

高木総合センターだより



令和5年（2023年）1・2月号

姫路市立高木総合センター
所在地：姫路市花田町小川553番地2
TEL(079)253-7461・FAX(079)253-7465



あけましておめでとうございます

皆様におかれましてはつつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、昨年も新型コロナウイルスで始まり、いろいろな変異株に振り回された1年でした。この新型コロナウイルス感染症も令和元年12月にその存在が確認されてからすでに3年が過ぎてしまいました。その間、私たちはワクチン接種や手洗い・消毒、マスク、三密回避といった対応でなんとか今までやり過ごしてきました。

当センターでも感染対策を行いながら昨年はなんとか計画通りの事業が実施できました。これもひとえに来館者等の皆様のご理解、ご協力のたまものと厚く御礼申し上げます。しかし、まだこの感染症も終息には至っておらず、今年もしっかりと感染対策をして皆様方をお迎えしたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

市外交流研修に行って来ました！

令和4年11月26日に岡山県瀬戸内市の国立療養所愛生園で学芸員の方に案内していただきながらハンセン病について学びました。ハンセン病は自然界に存在する感染力が非常に弱い“らい菌”に感染することで数年から20年くらいで発症します。末端の手足の神経系に発症すれば、痛みなどの感覚が無くなり、けがややけどなどの損傷でも重症化して、手足を切断することが多いとのこと。その姿でこの病気が外観的に知れ、差別を受けることになる。有史以来その外観で忌避（嫌ってさげられる）対象とされ、ひどい差別を受けてきました。日本では、劣悪な施設に隔離する政策が取られ、最初にできたのがこの長島にある長島愛生園です。



長島愛生園歴史館

このハンセン病も今では2つ又は3つの薬剤を投与することで完全に治癒する病気となっています。今入所されている約100名の方も完全に回復しているにもかかわらずさまざまな事情で故郷には帰れずこの場所で暮らしている入所者もいます。

特にこの施設に収容されれば二度と故郷には帰れない“収容桟橋という世間との境界”の場所は辛かったですね。ハンセン病と診断された子どもが母親と一緒に旅行に行けると喜んで船に乗ってたどり着くのがこの場所です。



収容桟橋

ここで子どもだけが無理やり降ろされ、一生故郷には帰ることが許されない。このようなことがここでは当たり前前の風景だったとは。本当に空しく、むごいですね。

ハンセン病という辛い過去の記憶から学ぶことがたくさんありました。

私たちは、新型コロナウイルス感染症でも同じですが、得体の知れない、理解できないものに恐れおののき、自己防衛に走り他人を傷つける行動に向かっていくようです。追い詰められたときほど、冷静になって物事を考えたいものです。

フットマッサージ（体の疲れを解消しませんか！）

日頃使いすぎて緊張している筋肉を自分のペースでゆるめ脱力させる究極のセルフマッサージです。

日時：令和5年1月12日(木) 午後2時～1時間程度

場所：高木総合センター 2階 会議室

講師：藤尾 知恵さん

参加料：無料(申込不要)

※靴下(あれば5本指靴下)と大きめのタオル、ヨガマット(持っている方のみ)をご準備して下さい。 ※2月の自力整体はありません。



ふれあい高齢者の集いと喫茶を開催しました。

12月1日に「ふれあい高齢者の集いと喫茶」を開催しました。

今回は花田・城山地域包括支援センターの職員の方に季節のリクリエーションとして「飛び出すクリスマスカード」の作製をご指導いただきました。



お仕事をお探しの方へ

「ハローワーク姫路求人情報（フルタイム・パート）」（姫路公共職業安定所発行）の最新情報が、毎週月曜日午後に高木総合センターに届きます。

高木総合センターにて配布しておりますので、必要な方は申し出ください。

高木総合センターホームページはこちら

スマートフォンをお持ちの方は、QRコード（右に掲載）をQRコード読み取りアプリで読み込んでアクセスすれば、高木総合センターのホームページをご覧になれます。パソコンの場合は、姫路市のホームページの検索欄から“高木”で検索して下さい。

